

「ニムラサダスナップ」栽培のポイント1

圃場準備

- 排水性・通気性・保肥力に優れた土作り
⇒ 深耕・高うねとし、有機質を十分施用
- 連作を避け、輪作を実施する
⇒ 連作圃場では、土壤消毒を行う(殺菌剤・太陽熱)

施肥設計

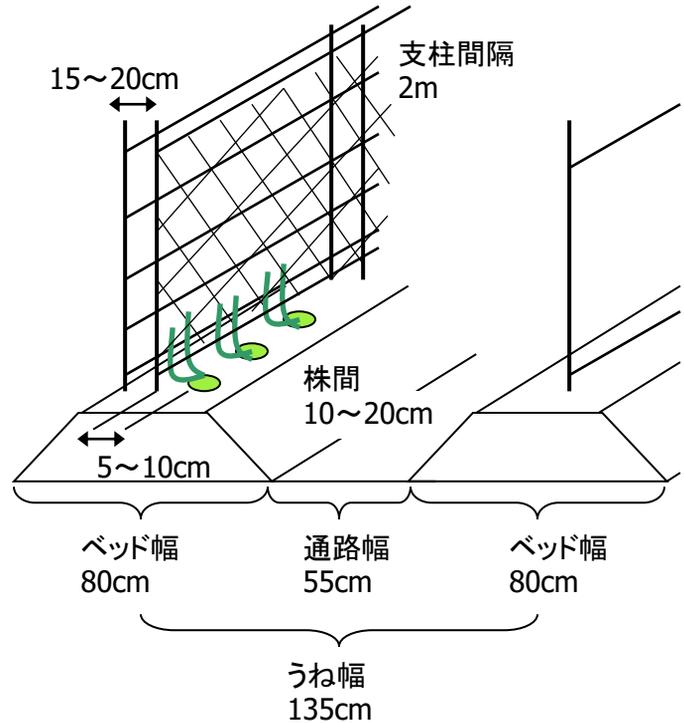
- 花数が多く多肥栽培を好む。肥料切れは収量減・病気多発を招くため注意!!
- 10a当り施肥例
苦土石灰 150kg 完熟堆肥2~3t
元肥: N...20~25kg P...30~35kg K...20~25kg
追肥: 1回当たり N...3kgを2~3回以上
※10節以上に着莢後に追肥1回目
その後は芯の勢い(太さ)を落とさないように実施

播種準備

- マルチはミラールマルチ又は白黒マルチを使用
➢ 既製品のマルチを使用する場合、穴径大
- うね幅130~150cm
- 株間10cm×2粒まき 又は20cm×3~4粒まき
➢ 7cm/1株となるように(短期どりなら5cm/1株)
➢ 側枝は全て除去する
- 播種直後又は播種前に支柱を立て、ネットを張る

播種

- 播種適期を守り、降雨直前・直後にまかない
➢ 無理な早まき・蒔き遅れ注意
➢ 露地栽培の場合、降雨直前・直後はまかない(最適な水分状態は、土を握って団子状で、軽くたたくと割れる程度)
➢ 乾燥時は深く、雨が多い時は浅くまく
➢ パオパオ・寒冷紗・敷きわら等で適湿度、適地温を確保する



一般的な仕立て方法

- ・播種直後又は播種前に支柱を立て、誘引する
- ・光の来る方向を考えてつるを曲げる(光の来る方向に着莢するため)
- ・最初つるを寝かせて誘引し、その後草丈が伸びるに従い、テープで網を挟むように誘引する(L字誘引)



生長期の栽培の様子

- ・テープで網を挟むように誘引する

「ニムラサラダスナップ」栽培のポイント2

樹作り最優先!!

- 整枝、摘花で樹作り最優先の管理を行う
- 最低気温12℃以上、最高気温20℃以上の環境では、莢の生長が早くなり、樹がバテやすいため、若莢で収穫する

整枝・摘花

- 整枝
主枝1本仕立てとする
(つるの間隔: 短期どり 5cm、長期どり 7cm)
- 摘花
着莢開始位置は、13節を目安とする
(初花房は8節くらいにくるが、下位節着莢はバテが早い
ため、着莢位置までの花房は除去する)

誘引

- 草丈が伸びるに従い、倒伏・折れ防止のためテープでネットを囲むように誘引
- Wネットは誘引テープの必要がなく、省力が期待できる
- つるが支柱の丈夫に達したら、誘引テープをしっかりと張り、それに沿ってつるを折り曲げる⇒莢の重みでつるが下に向かって伸びていく

追肥・灌水

- 追肥は着莢が始まったら1回目を実施し、以後20～30日おきに実施
- 1回当たりN成分で3kgを目安とする
- 着莢位置の花が開花し始めたら乾燥させないように注意する(株元は乾燥)
- 灌水位地は株元からだんだん話していき、草丈1～1.5mになったら通路灌水を主とする

収穫

- 莢のふくらみ7分入りが適期
- 収穫遅れは樹がバテるため注意する(特に10月・3～4月は若どりをこころがける)



目標草姿

- 花: ダブルで大きく揃っている
- 茎: エンピツより太くてがっしり
- 葉: 肉厚で丸葉、2対半～3対葉
- 芯: どっぷりと大きく横向き



温度管理

生育適温: 15～20℃

最低: 5℃ 最高: 25℃

・25℃以上の高温となると徒長しやすくなり、着莢が悪くなったり霜害を受けやすくなるため十分に換気する

・夜間でも密閉する必要はない

・厳寒期・降雨日も換気する!!